

「洋書の森」主催  
翻訳者のためのウィークエンドスキルアップ講座 第31回

# こどもの本の訳し方

講師 こだまともこ氏

翻訳者は、物語という森の案内人のようなもの。上手に案内しないと、読者は森の魅力に気づかないだけでなく、あやまった小道に迷いこむかもしれません。子どもの読者はとりわけ薄情で、忖度したりしませんから、下手な案内人にさっさと見切りをつけて森を出てしまい、本を読むのをやめてしまいます。なかには、読書そのものが嫌いになってしまう子どももいます。ひとくくりに児童書の読者といっても、赤ちゃんから20代はじめの若い人たちまで、対象年齢（age groupともいいます）はさまざま。ですから、言葉の使い方から表記のしかたまで、それぞれのage groupに適した表現方法を考えなければいけません。そこに、大人の読者を対象にした翻訳とちがう難しさや楽しさがあると思っています。

わたしの訳した本を読んで、本が大好きになる子どもがひとりでもいたら、それこそ翻訳者冥利につきるというものです。

こだまともこ

# ◆ 参加要項 ◆

## 日 時

2018年4月21日（土）15：00～17：00（受付開始14：30）

## 講 師

こだまともこ 氏（翻訳家）

## 会 場

日本出版クラブ会館・セミナールーム  
（新宿区袋町6番地 都営大江戸線牛込神楽坂駅より徒歩2分）  
<http://www.shuppan-club.jp/>

## 参加費

2,100円

## 定 員

60名（申込順、定員になり次第締切らせていただきます）  
「洋書の森」未会員の皆さまもご参加になれます  
希望者による恒例の交流会（参加費3200円・食事代を含む）を講師同席のもと17：30より、  
会場1Fレストラン・ローズルームにて開催いたします  
参加ご希望の方は同時にお申込みください

## お申込み・お問合せ

お名前・洋書の森会員番号（会員の方）・ご連絡先電話番号、アドレス・参加人数を明記して「4/21（講座のみ or 講座・交流会とも）参加希望」と以下アドレス宛てにE-mailにて送信してください

（財）日本出版クラブ内 「洋書の森」事務局  
E-Mail : [yousho@shuppan-club.jp](mailto:yousho@shuppan-club.jp) TEL 03(3260)5271

## こだまともこ 略歴

### ～わたしが翻訳者としてデビューするまで～

- ☆東京都中野区に生まれ、地元の小学校に通う。今でも珍しいと思うが、二階建ての立派な図書館のある学校で、放課後や昼休みはもちろんのこと、授業のあいだの休み時間にも通いつめる。本を借りられるのは水曜日だけと決まっていたが、図書先生に「あなたは毎日借りに来てもよい」といわれ、天にも昇る心地がした。
- ★「英語の〇〇」という評判の私立中学校に入学。生徒はみな、塾に通ったり、家庭教師をつけたりして熱心に勉強していたが、This is a pen. 的な文章にうんざりして、まったく興味がわかなかった。
- ★クリスマス礼拝に英詩を生徒が朗読することになり、わたしがその和訳担当に選ばれた。英語の教師は「あんな出来の悪い生徒にはまかせられない」と猛反対したが、国語の教師が熱心に推してくれた。これが人生初の翻訳だったが、クリスマス礼拝に朗読されなかったところを見ると、大失敗だったらしい。
- ☆高校に入り、東大の学生、大学院生が教える東京大学文化指導会のサンデー・スクールに通った。後に高名な精神科医となられる金子嗣郎氏のクラスでスティーブンスンのエッセイに出会い、英語で書かれた文学に魅了された。学校の授業でもヘミングウェイやスタインベックの文章に触れ、大嫌いだった英語と、大好きな本が、わたしのなかで初めてがっちりと手を握りあった。
- ☆早稲田大学第一文学部英文学専修に入学。それから4年間、週一回のゼミで難解きわまりないメルヴィルの作品を読まされるいっぽう、英字新聞部ワセダ・ガーディアンで四苦八苦しながら英文の記事を書いた。超のつくマンモス大学なのに、ゼミの三浦修教授、ガーディアンの伊東克己教授にかわいがっていただき、卒業後もずっと親しくしていただいたのは、幸運だったとしかいいようがない。
- ★卒業後、出版社に入社。ファッション誌に配属され、誌面に乗せる服のデザイン画などを描いていたが、あまりに下手なので、ほかの部から見物に来た。
- ☆編集部の同僚に井上洋介の画集を見せてもらったことから児童文学に興味を持ち、同人誌「こだま児童文学会」に入った。乙骨淑子、宇野克彦、山下明生、掛川恭子、柴田道子、奥田継夫、北畑静子という、錚々たるメンバーに鍛えられながら、創作に励んだ。
- ☆「こだま」同人の八木田宜子さんの紹介で、センダックの絵本『うさぎさんてつだってほしいの』（富山房刊）を訳し、ほぼ同時期に創作絵本『3じのおちゃんにきてください』（福音館書店刊）を出した。出版から40年以上たっただけでも、この2冊は書店に並んでいる。児童書って、ほんとうに息が長いんです！

## 著作

川端有子、こだまともこ、水間千恵、本間裕子、遠藤純 編著『「もの」から読み解く世界児童文学事典』原書房、2009年9月

野上暁＋グループM3『ファンタジービジネスのしかけかた——あのハリー・ポッターがなぜ売れた』講談社、2003年7月

こだまともこ作 織茂恭子絵『ビスケットのかけらがひとつ』福音館書店、こどものとも363号、1986年6月（特装版1999年4月）

こだまともこ作 おりもきょうこ絵『まいごのまめのつる』福音館書店、こどものとも318号、1982年9月（特装版1989年9月、2011年4月）

こだまともこ作 水野二郎絵『おばあさんのじてんしゃ』チャイルド本社、おはなしチャイルド49、1979年6月（おはなしチャイルド紙芝居2、ひさかたメルヘン1983年、おはなしチャイルドリクエストシリーズ〔ひさかたメルヘン38〕1998年）

こだまともこ作 なかのひろたか絵『3じのおちやにきてください』福音館書店、こどものとも253号、1977年4月（普及版1982年5月、1986年、1991年、特製版1995年4月、2003年4月、こどものともセレクション2006年、特選こどものともライブラリーセット版2010年、こどものとも絵本版2011年4月）

小玉知子文 黒岩明人絵『また あとで！』（すてきなお母さん付録18号）文化出版局、1975年

## 訳書

D・D・エヴェレスト『アーチャー・グリーンと伝説の魔術師（アーチャー・グリーンと魔法図書館3）』あすなろ書房、2018年2月

パトリシア・マクラクラン『テディが宝石を見つけるまで』あすなろ書房、2017年11月

D・D・エヴェレスト『アーチャー・グリーンと錬金術師の呪い（アーチャー・グリーンと魔法図書館2）』あすなろ書房、2017年1月

エマ・チチェスター・クラーク『なかないで、アーサー てんごくにいったいぬのおはなし』徳間書店、2017年1月

A・F・ハロルド作 エミリー・グラヴェット絵『ぼくが消えないうちに』ポプラ社、2016年10月

ジョーン・エイキン『ナンタケットの夜鳥（ダイドーの冒険3）』富山房、2016年10月

デボラ・ホプキンソン ラウル・コローン絵『サリバン先生とヘレン ふたりの奇跡の4か月』光村教育図書、2016年9月

ナタリー・バビット『月は、ぼくのともしち』評論社、2016年6月

ジョン・スティーブンス『ブラック・レコニング 最古の魔術書3』あすなろ書房、2015年12月

ジュリア・ジャーマン作 スーザン・バーレイ絵『ラブリーオールドライオン おじいちゃんわすれないよ』フレール館、2015年8月

D・D・エヴェレスト『アーチャー・グリーンと魔法図書館の謎』あすなろ書房、2015年7月

バーバラ・オコーナー『スモーキー山脈からの手紙』評論社、2015年7月

ジュディス・カー文・絵『ワニくんとパーティーにいったんだ』徳間書店、2015年5月

キャンデス・フレミング作 ジゼル・ポター絵『町にながれるガブリエラのうた』さ・え・ら書房、2015年4月

ケリー・クネイン文 ホダー・ハッダーデイ絵『あたし、メラハファがほしいな さばくのくにモータニアのおはなし』光村教育図書、2014年12月

ロディ・ドイル作 こがしわかおり絵『さよならのドライブ』フレーベル館、2014年1月

ジョン・ステイブンス『ファイアー・クロニクル 最古の魔術書II』あすなろ書房、2013年12月

ボブ・グレアム『わたしたちのてんごくバス』さ・え・ら書房、2013年12月

ジョーン・エイキン文 ケンティン・ブレイク絵『ふしぎな八つのおとぎばなし』富山房、2012年12月

パトリシア・マクラクラン作 大庭賢哉絵『犬のことばが聞こえたら』徳間書店、2012年12月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 渡辺南都子共訳 丹地陽子絵『大草原の小さな家シリーズ 大草原の小さな家(新装版)』講談社青い鳥文庫、2012年11月

エレナー・アップデール『天才ジョニーの秘密』評論社、2012年11月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 渡辺南都子共訳 丹地陽子絵『大草原の小さな家シリーズ 大きな森の小さな家(新装版)』講談社青い鳥文庫、2012年8月

トレーシー・バレット作 十々夜絵『XX(ダブルエックス)・ホームズの探偵ノート4 いなくなったプリンセス』フレーベル館、2012年7月

ジョーン・エイキン作 山本美希画『コールド・ショルダー通りのなぞ(ダイダーの冒険2)』富山房、2012年4月

ジョーン・エイキン作 パット・マリオット画『バタシー城の悪者たち(ダイダーの冒険1)』富山房、2011年7月

トレーシー・バレット作 十々夜絵『XX(ダブルエックス)・ホームズの探偵ノート3 消えたエジプトの魔よけ』フレーベル館、2011年7月

トレーシー・バレット作 十々夜絵『XX(ダブルエックス)・ホームズの探偵ノート2 ブラックスロープの怪物』フレーベル館、2011年3月

ジューン・カウンスル作 いたやさとし絵『一組のドラゴンとまほうの山!』日本標準、2010年12月

トレーシー・バレット作 十々夜絵『XX(ダブルエックス)・ホームズの探偵ノート1 名画「すみれ色の少女」の謎』フレーベル館、2010年11月

デイヴィッド・ベネディクタス文 マーク・バージェス絵『プーさんの森にかえる A. A. ミルンとE. H. シェパードの物語より』小学館、2010年10月

イアン・フレミング作 ジョン・バーニンガム絵『チキチキバンバン3 ギャングなんかこわくない』あすなろ書房、2010年9月

イアン・フレミング作 ジョン・バーニンガム絵『チキチキバンバン2 海辺の大ぼうけん』あすなろ書房、2010年9月

イアン・フレミング作 ジョン・バーニンガム絵『チキチキバンバン1 チキチキバンバンはまほうの車』あすなろ書房、2010年9月

ジューン・カウンスル作 いたやさとし絵『ドラゴンとみんなの新学期!』日本標準、2010年9月

ジューン・カウンスル作 いたやさとし絵『ドラゴンが教室にやってきた!』日本標準、2010年4月

ジョーン・エイキン作 パット・マリオット画『少女イス 地下の国へ(ダイダーの冒険)』富山房、2010年3月

ジェラルディン・マコックラン『ティムール国のゾウ使い』小学館、2010年3月

ルース・アレン『賞をとった子どもの本 70の賞とその歴史』こだまともこ監訳 熊谷淳子、本間裕子訳、多摩川大学出版部、2009年12月

ポール・ガルドン再話・絵『ふくろのなかにはなにがある?』ほるぷ出版、2009年7月

ヴァージニア・ユウワー・ウルフ『トゥルー・ビリーヴァー』小学館、2009年6月

エリザベス・ジョージ・スピア『ビーバー族のしるし』あすなろ書房、2009年2月

アリソン・アトリー作 いたやさとし絵『続 月あかりのおはなし集』小学館、2008年11月

ジョン・エイキン作 パット・マリオット画『ウィロビー・チェースのオオカミ(ダイドーの冒険)』富山房、2008年11月

ジョージ・アダムズ文 カーチャ・ミハイロフスカヤ絵『クリスマスの人形たち』徳間書店、2008年10月

クリスティアナ・ブランド作 エドワード・アーディゾーニ絵『マチルダばあや、ロンドンへ行く』あすなろ書房、2008年5月

ジョン・エイキン作 パット・マリオット画『ダイドーと父ちゃん(ダイドーの冒険)』富山房、2008年1月

サイモン・ジェームズ作『テンサイちゃんとロボママ』小学館、2007年12月

クリスティアナ・ブランド作 エドワード・アーディゾーニ絵『マチルダばあやといたずらきようだい』あすなろ書房、2007年6月

アリソン・アトリー作 いたやさとし絵『月あかりのおはなし集』小学館、2007年2月

ジェニファ・チョールデンコウ『アル・カポネによろしく』あすなろ書房、2006年12月

ジェラルディン・マコックラン作『ピーター・パン イン スカーレット』小学館、2006年12月

エリナー・コア文 エド・ヤング絵『つる—— サダコの願い(世界子ども平和図書館2)』日本図書センター、2005年6月

アラン・アルバーク『その猫がきた日から』講談社、2003年11月

フィリップ・アーダー作 デイヴィッド・ロバーツ絵『あわれなエディの大災難』あすなろ書房、2003年10月

マーガレット・ミーク『読む力を育てる マーガレット・ミークの読書教育論(子どもと本 4)』柏書房、2003年4月

エイダン・チェインバーズ『みんなで話そう、本のこと——子どもの読書を変える新しい試み』柏書房、2003年2月

ガース・ウイリアムズ『ベンジャミンのたからもの』あすなろ書房、2002年6月

ニーナ・ボーデン作 金子恵絵『おばあちゃんはハーレーにのって』偕成社、2002年6月

パム・M・ライアン作 藤田新策絵『ライディング・フリーダム——嵐の中をかけぬけて』ポプラ社、2001年12月

アラン・アルバーク作『いつもお兄ちゃんがいた』講談社、2001年12月

ピーター・ハント編 さくまゆみこ、福本友美子共訳『子どもの本の歴史——写真とイラストでたどる——』柏書房、2001年10月

フィリス・ルート作 ウィル・ヒレンブランド絵『キスなんかしないよ!』徳間書店、2001年2月

ジョン・リンガード作 田口智子絵『トムのほんとうのうち』徳間書店、2001年1月

ジョアン・ロックリン作 井江栄絵『シュトルーデルを焼きながら』偕成社、2000年9月

セルビー・ビーラー文/ブライアン・カラス絵/石川烈 監修『はがぬけたらどうするの? ——せかいのこどもたちのはなし』フレーベル館、1999年5月

ヴァージニア・ユウワー・ウルフ作『レモネードを作ろう』徳間書店、1999年4月

ロジャー・リー・マクブライド作 渡辺南都子共訳『ロッキーリッジの新しい夜明け(新大草原の小さな家 6)』講談社、1998年5月

スーザン・E・ヒントン作 高橋由為子絵『妹になるんだワン!』徳間書店、1998年3月

シルヴィア・ウォー作 佐竹美保絵『丘の上の牧師館——メニム一家の物語(ザ・メニムズ5)』講談社、

1997年11月

シルヴィア・ウォー作 佐竹美保絵『北岸通りの骨董屋——メニム一家の物語(ザ・メニムズ4)』講談社、1997年5月

ダイアナ・ヘンドリー作 杉田比呂美絵『屋根裏部屋のエンジェルさん』徳間書店、1997年2月

シルヴィア・ウォー作 佐竹美保絵『屋敷の中のとらわれびと——メニム一家の物語(ザ・メニムズ3)』講談社、1996年10月

ロジャー・リー・マクブライド作 渡辺南都子共訳『丘のむこうの小さな町へ(新大草原の小さな家4)』講談社、1996年5月

シルヴィア・ウォー作 佐竹美保絵『荒野のコーマス屋敷——メニム一家の物語(ザ・メニムズ2)』講談社、1996年4月

パトリシア・マクラクラン作 中村悦子絵『草原のサラ』徳間書店、1996年1月

シルヴィア・ウォー作 佐竹美保絵『ブロックルハースト・グローブの謎の屋敷(メニム一家の物語1)』講談社、1995年10月

フローラ・マクダネル『わたしのだいすきなふねは…』富山房、1995年6月

フローラ・マクダネル『わたしのだいすきなどうぶつは…』富山房、1995年5月

ロジャー・リー・マクブライド 渡辺南都子共訳『オウザークの小さな農場(新大草原の小さな家2)』講談社、1995年4月

マリリン・ジャンビッツ『もうおふろにはいるじかん?』富山房、1994年12月

ユージーン・トリビザス文 ヘレン・オクセンバリー絵『3びきのかわいいオオカミ』富山房、1994年5月(大型しかけえほん、大日本絵画2005年)

シェリル・マクファーレン文 ロン・ライトバーン絵『シャチのくる日』文化出版局、1994年5月

マリータ・コンロン・マケーナ作 中村悦子絵『サンザシの木の下に』講談社、1994年3月

カレン・バーバー『なかよくしたら?』富山房、1993年7月

メガン・スタイン作 マーシィ・ダン・ラムジー絵『小さな家のローラ——ローラ・インガルス・ワイルダー物語』講談社青い鳥文庫、1993年7月

ジェーン・ヨーレン文 キャスリン・ブラウン絵『モグラのイーニーが見つけたもの』富山房、1993年5月

マーティン・ウォデル作 エルシー・レノックス絵『ロックリバー物語2 オビーとさらわれた子』講談社、1992年12月

マーティン・ウォデル作 エルシー・レノックス絵『ロックリバー物語1 オビーとマーティ』講談社、1992年12月

ジーン・リトル作 草間俊行絵『キャラメル色のドラゴン』講談社、1991年1月

ジーン・リトル作 新野めぐみ絵『これ、あたしの犬よ!』講談社、1990年3月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 渡辺南都子共訳『この輝かしい日々(大草原の小さな家7)』講談社文庫、1988年12月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 渡辺南都子共訳『大草原の小さな町(大草原の小さな家6)』講談社文庫、1988年11月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 渡辺南都子共訳『農場の少年(大草原の小さな家5)』講談社文庫、1988年10月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 渡辺南都子共訳『シルバー湖のほとりで(大草原の小さな家4)』講談社文庫、1988年9月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 渡辺南都子共訳『プラム川の土手で(大草原の小さな家3)』講談社文庫、1988年8月

パメラ・アレン『まよなかにきたライオン』ミキハウスの絵本、1988年5月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 渡辺南都子共訳『大草原の小さな家(大草原の小さな家2)』講談社文庫、1988年6月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 渡辺南都子共訳『大きな森の小さな家(大草原の小さな家1)』講談社文庫、1988年6月

ハリエット・ツイーフェルト文 アーノルド・ローベル絵『くまくんのかいもの』文化出版局、1987年8月

ハリエット・ツイーフェルト文 アーノルド・ローベル絵『くまくんのあさはおおいそがし』文化出版局、1987年8月

ハリエット・ツイーフェルト文 アーノルド・ローベル絵『くまくんなにをきるのかな』文化出版局、1987年8月

ハリエット・ツイーフェルト文 アーノルド・ローベル絵『くまくんあそぶのだいすき』文化出版局、1987年8月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 かみやしん絵 渡辺南都子共訳『この輝かしい日々(大草原の小さな家7)』講談社青い鳥文庫、1987年5月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 かみやしん絵 渡辺南都子共訳『大草原の小さな町(大草原の小さな家6)』講談社青い鳥文庫、1986年9月

バーバラ・M・ウォーカー編、ガス・ウィリアムズ絵、渡辺南都子共訳『大草原の「小さな家のダイアリー」』文化出版局、1986年2月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 かみやしん絵 渡辺南都子共訳『農場の少年(大草原の小さな家5)』講談社青い鳥文庫、1985年5月

イーディス・T・ハード作 クレメント・ハード絵『ライオンのジョニーかぜをひく』佑学社、1984年12月

チャールズ・ディケンズ作 司修絵『クリスマスキャロル——クリスマスのうれしいの話』講談社青い鳥文庫、1984年11月(『クリスマスキャロル』講談社少年少女文学館71987年11月、1989年。新装版、杉田比呂美 絵、講談社青い鳥文庫2007年11月、講談社21世紀版少年少女世界文学館2010年11月、講談社オンデマンドボックス大きな文字の青い鳥文庫〔上・下〕2011年)

イーディス・T・ハード作 クレメント・ハード絵『ライオンのジョニーひとりでおるすばん』佑学社、1984年11月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 かみやしん絵 渡辺南都子共訳『シルバー湖のほとりで(大草原の小さな家4)』講談社青い鳥文庫、1984年9月

ジョゼフ・ジェイコブズ『三びきの子ぶた(母と子の世界のメルヘン14)』講談社、1984年11月

ジョゼフ・ジェイコブズ『ジャックとまめの木(母と子の世界のメルヘン13)』講談社、1984年11月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 かみやしん絵 渡辺南都子共訳『プラム川の土手で(大草原の小さな家3)』講談社青い鳥文庫、1983年11月

タニス・リー著『闇の城』早川書房ハヤカワ文庫、1983年6月

ローラ・インガルス・ワイルダー作 かみやしん絵 渡辺南都子共訳『大草原の小さな家(大草原の小さな家2)』講談社青い鳥文庫、1982年11月(新装版2012年11月)

ローラ・インガルス・ワイルダー作 かみやしん絵 渡辺南都子共訳『大きな森の小さな家(大草原の小さな家1)』講談社青い鳥文庫、1982年7月(新装版2012年8月)

シド・ホフ『きょうりゅうくんはするよ・しないよ』文化出版局、1985年7月



トニー・ロス『よくばりくつや』文化出版局、1982年4月

バーバラ・M・ウォーカー作 ガース・ウィリアムズ絵 本間千枝子共訳『大草原の「小さな家の料理の本」——ローラ・インガルス一家の物語から』文化出版局、1980年12月(1981年)

ジョゼフ・ジェイコブズ『ジャックとまめの木(世界のメルヘン4イギリス童話1)』講談社、1980年(1984年)

ヘレン・アバーソン『ダンボ そらとぶぞう(ディズニー国際版世界の名作絵童話全集)』講談社、1980年  
ウィリー・ポガニー、ヴラディミール・タマリ絵『ものいう馬(世界むかし話5中近東)』ほるぷ出版、1979年10月

ジョン・シャロン『みどりいろのバス』ほるぷ出版、1979年3月

ルース・クラウス文 モーリス・センダック絵『シャーロットとしろいうま』富山房、1978年11月

アーネスト・スモール文 ブレア・レント絵『バーバ・ヤガー』富山房、1975年12月(童話館出版1998年1月)

ジャニス・メイ・ユードリー文 モーリス・センダック絵『きみなんか だいきらいさ』富山房、1975年5月

シャーロット・ゾロトウ文 モーリス・センダック絵『うさぎさん てつだってほしいの』富山房、1974年11月

\* 上記、著書・訳書リストは、「やまねこ翻訳クラブ」のご厚意により提供いただいたリストをもとに作成しています。

「やまねこ翻訳クラブ」トップページ: <http://www.yamaneko.org/>

「こだまともこ著者・訳書リスト」: <http://www.yamaneko.org/bookdb/int/ls/tkodama.htm>